

## C18a 東京学芸大学における暗黒星雲の広域探査

土橋 一仁、櫻井 冬子、海田 正大、西浦 慎悟(東京学芸大学)、梅本 智文(国立天文台)

我々東京学芸大学の研究グループでは、光学写真のデータベースである Digitized Sky Survey I (DSS) にスターカウント法を適用することにより、全銀河面に渡る暗黒星雲の探査を行った。この探査では、銀緯 $\pm 40^\circ$ 以内の領域を完全に網羅する減光量マップ(角分解能 =  $6'$ )が得られ、合計 5289 個の暗黒星雲とその内部のクランプを検出することができた。一連の探査結果をカタログ付きの暗黒星雲アトラスとしてまとめ、Lynds カタログ等既存の暗黒星雲カタログとの対応表とともに、PASJ 特集号として出版することができた (Dobashi, Uehara, Kandori, Sakurai, Kaiden, Umemoto, and Sato, 2005, PASJ, vol. 57(SP1), pp. S1-S386)。

現在、我々のグループでは、DSS 計画と名付けた上記の研究の成果を、オンラインで公開することを計画している。平成 17 年 4 月より、世界中の研究者が随時データをダウンロードし、利用するためのホームページを試験的に公開している (URL <http://astro.u-gakugei.ac.jp/~tenmon/Atlas/Astronomer.html>)。このホームページはまだ試験運用の段階にあるが、ユーザーから寄せられる意見・希望を反映しつつ、1 年程度の時間をかけてアップグレードしてゆく予定である。

本年会では、上記のホームページについて紹介しつつ、DSS 計画の「データベース天文学」としての意義・価値について述べる。